

# 広報 ますざわ

## 鱒沢小学校全校児童と名所めぐりを実施

### ～ 交流と継承ワーキンググループ ～



↑体育館で始まりの会の様子

交流と継承ワーキンググループ(以下WG)ではまちづくり計画の事業の一つとして鱒沢小学校全校児童との名所めぐりを9月1日(木)に実施しました。生まれ育った鱒沢に興味を持ち、好きになるきっかけになってもらえればという思いで鱒沢小学校と詳細に打合せをしながら初めて計画した事業です。

はじめに全校児童15名が体育館に集まり、地域マップ「実はすごいぞ!鱒沢ひすとリー」を基に制作したDVD映像をWGメンバーの多田一也さんの解説により視聴しました。その後子供たちはスクールバスに乗り実際に名所を見学に出発しました。

子ども達は始め少し緊張している様子も見受けられましたが、普段見ることのない神社の中などを見学しているうちに、質問や自分の思ったことを積極的に話してくれるようになり、活気のある名所めぐりとなりました。

最後に6年の菊池元輝君から「名所めぐりをして、今まで鱒沢にはそんなに名所はないと思っていたけど、実は多いことを



↑子ども達が鞍迫観音堂で説明を聞いている様子

最初に、『高館八幡神社とエドヒガンザクラ』を見学、高館地区の小友善衛さんが解説しました。次に上鱒沢地区の『算額・絵馬、鞍迫観音』をWGメンバーの佐々木政嗣さんが解説し見学しました。最後に、迷岡地区の『迷岡駒形神社と一里塚』を見学しWGリーダーの佐藤牧夫さんが解説しました。

↓子ども達が寸楽を舞っている様子



晴天の9月11日(日)に柏木平地区では、砥森神社の旧鳥居の撤去と建て替えた2基の鳥居建立のお祓いを遠野八幡宮の宮司様を迎えておこない、御神楽(みかぐら)と子ども達7名で寸楽を舞い朱色の鳥居をくぐり奉納し地域住民で参拝をしました。

## 砥森神社へ 神楽奉納し参拝

知って、びっくりしました。これからは自分が気になったことは調べたいと思ったし、大切にしていきたいと思った。ありがとうございます。」とお礼の言葉をいただきました。

交流と継承WGでは地域の名所・旧跡を後世に継承していく事業を今後も継続していきます。



# 鱒沢にお城があった???

※鱒沢城（別名：鱒沢館）に今回号と次回号で紹介します。

上鱒沢の長泉寺の裏山に鱒沢城（別名：鱒沢館）の跡があります。笠通山に連なる尾根の末端の丘陵に築かれた矢倉や門などの建物も、石垣もない山城でした。

南斜面を七、八段の平場に削平し、後背を掘り切りし、全面を平地にむけています。周囲全体は空堀で囲まれ、特に上部東側は谷の急斜面を利用し、深く広い堀は二重三重となって見事です。

基部幅は百メートル、比高は百メートルを超え、面積は一万平方メートルにも及ぶ壮大な規模を有し、猿ヶ石川沿いの山城としては最大級の山城跡です。

次回号では、鱒沢城（鱒沢館）の歴史について紹介します。

## 鱒沢館の縄張り図

※所々に小さな平場を作り、西側の段上に設けられた各平場と連結する。物見場所、見張り場所としての役割があったと考えられる。西側の尾根上に伸びた平場の端部は他よりやや高い。



空堀の間の尾根上の設けられた小さな平場は、空堀を越えて一度期に多くの敵が攻めて来れない様にする施設。本丸跡最上部土壁上から狙い撃ちするねらいがあったと考えられる。

尾根を下って来る敵を防御する為、底に段差を付けて東西2重に大きな空堀を巡らせている。部分的に4本となる空堀。最大高低差は10mを超える。

幅の狭い平場（帯郭）は目隠し、又は防護用施設が設けられていたと推定される。

空堀の底に設けられた段

巨大規模の空堀

土壁上に作られた平場

緩斜面

人工的段差防備用